

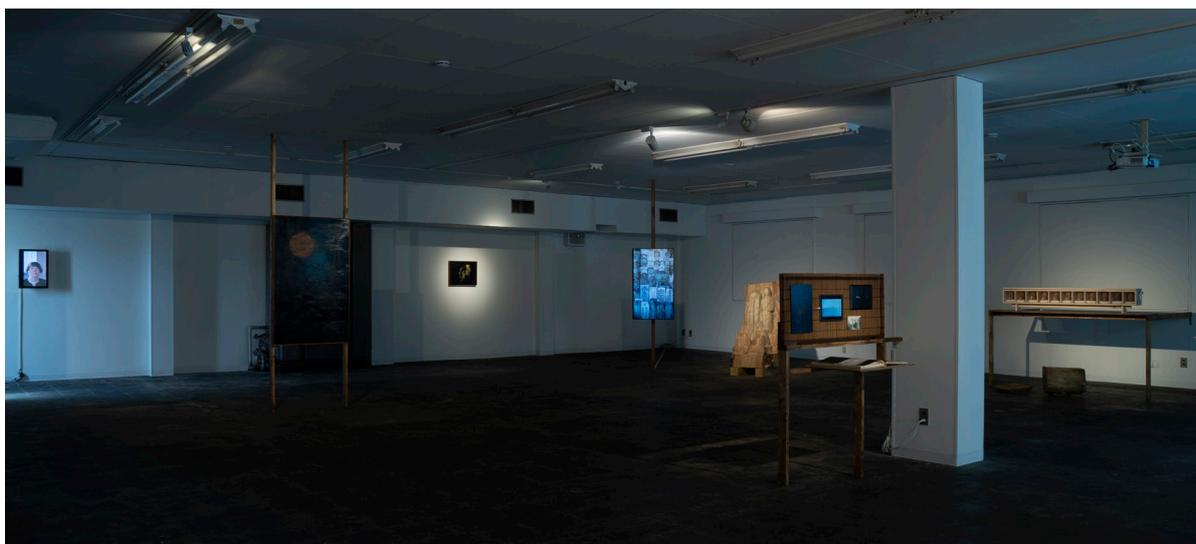
大阪・上町台地をめぐる現代美術展
「オルタナティブ・ロマン」

開催のお知らせ 第1弾速報

上町台地アートワークス実行委員会は、大阪市天王寺区を中心とする「上町台地」をテーマとした、複数アーティストによる地域調査・地域介入の結果を一堂に集め公開する現代美術展を開催いたします。

上町台地とは、最北端に大阪城、最南端に住吉大社をおき、標高 8~20m ほどの高台になっている地域を指します。ここでは、大阪市の大部分が海底にあった太古から人々が集住し、特に古代から中世にかけて大阪の文化の集約が見られ、それにともない多彩で豊かな人々の営みが行われてきました。今でもその中心地には、日本で最初の官寺である四天王寺と、日本で一番の高層ビルであるあべのハルカスを、わずか 1km 圏内に隣接させるという古今が渾然一体となった景観を育んでいます。

このような特異な場所において、アーツサポート関西に設けられた「上町台地現代アート創造支援寄金」からの助成を受けたアーティストの制作やリサーチ活動が 2018 年以降、継続的に繰り広げられてきました。それらの取り組みの総体を、この 2022 年 10 月、一つの節目として、広く一般のみなさまに公開いたします。



参考画像：2021 年「アノ ヒダマリニテ」展示風景（主催：TRA-TRAVEL / 助成：アーツサポート関西 ASK「上町台地現代アート創造支援寄金助成」、一般財団法人おおさか創造千島財団「2021 年度創造的場づくり助成活動」 / 協力：浄國寺、真光院、心光寺、大覚寺、超心寺、イチノジュウニのヨン、柳本京子（敬称略、順不同）） / © Yukawa-Nakayasu、葎村太一

■ 本件に関するお問い合わせ先 上町台地アートワークス実行委員会

TEL:06-6556-6684（平日 13:00 - 18:00） / Email : uemachiartworks@gmail.com

本展覧会コンセプト

大阪の上町台地ではこの数年、その特異な文化史へ呼応する形で、アーティストによる表現の実践が行われてきました。それらは、太陽の塔から続く巨大シンボル彫刻や、社会実装などのアートイベントや、大規模アートフェアといった、昨今の大阪で隆盛するアート企画とは全く異なるものです。この文脈を「あったかもしれない小説」(=オルタナティブ・ロマン)と位置付け、彼女 / 彼らが表現を通して史実や土地とどのように向き合ったかに迫る展覧会を目指します。

キュレーション：笹原晃平

開催概要（第一弾発表内容）

「オルタナティブ・ロマン」

会期：2022年10月12日(水)~23日(日)

会場：阪口楼(〒543-0063 大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1-30)

(ほか複数会場9月中旬以降発表)

時間：13:00~18:00

入場：無料

主催：上町台地アートワークス実行委員会、上町台地アートプロジェクト実行委員会

共催：和宗総本山四天王寺、一般財団法人大阪地域振興調査会、大阪市立美術館

助成：アーツサポート関西、公益財団法人野村財団

参加作家：松田壯統、Yukawa-Nakayasu (ほか数名9月中旬以降発表)

キュレーション：笹原晃平

ウェブサイト：<https://uemachiartworks.dcmnt.net>

SNS：

twitter：@uemachiartworks

instagram：@uemachiartworks

facebook：@uemachiartworks



Arts Support Kansai

NOMURA 野村財団

アーティスト紹介（第一弾発表アーティスト）

松田壯統（まつだ・まさのり）

1982年兵庫県生まれ。2009年東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻修了。2017-18 ポーラ美術振興財団 在外研修員としてアイルランドに滞在。2019-21 文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員としてポーランドに滞在。地震により倒壊した家、そこに差し込んだ光を新しく生まれた光ととらえ、象徴が明滅するような儀式・空間を構築、失ったモノへのアプローチを行う。家・太陽・魂などに潜り込み、新しい光や祈りをみえない生命の流れとして刻んでいく。2019年ポーランド日本国交100周年の展覧会（京都・ポーランド）に参加。

Yukawa-Nakayasu（ゆかわ・なかやす）

1981年大阪府生まれ。歴史や習俗や習慣をもとに、社会や身体、日常に内在している営為や現象を視覚化する作品を制作。特に、近年では「生命の循環」まで視野を広げ、生命の営みとその現象との相互関係に着目している。近年の展覧会では、『Dear』（2022, 飛田会館, 大阪）などがある。また2019年からアートハブ TRA-TRAVEL を立ち上げ、2020年『ポスト LCC 時代の 』（京都芸術センター）などの展覧会をプロデュースする。

キュレーター紹介

笹原晃平（ささはら・こうへい）

1984年東京都出身、大阪府在住。2009年東京芸術大学 美術学部先端芸術表現科卒業。周辺環境への取材とその場の関係性の構築から出発し、インスタレーション作品制作および展覧会キュレーションをするアーティスト。主なキュレーション展に、『アーキテイルズ』（2012, Do a Front, 山口）、『スポンテイニナス・ビューティー』（2017, 京都芸術センター, 京都）、『千島土地コレクション展 - TIDE 潮流が形になるとき -』（2022, Kagoo・千島文化・クリエイティブセンター大阪, 大阪）などがある。FRAC Grand Large - Hauts - de - France に作品所蔵。